

- 1 主題名 「誠実な心とは」 【A- (2) 正直・誠実】
資料名 『手品師』(明るい心)

2 ねらい

資料を通して誠実に生きる手品師のよさが分かり、誠実性を求めて生きていこうとする気持ちを高める。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

誠実の「誠」とは、「言が成る」と書く。自分が口に出して言ったことが実際の具体的な行いとして表されることである。つまり有言実行である。言と行が一致されている人物は信頼される。しかし、人間は迷い悩む存在である。誠実な人間は悩まないかと言ったらそうではない。むしろ誠実だから悩むのである。自分自身の思いも大切にしたいし、周囲にも親身にそして真心をもって接したいと強く思い願っている。だから日常において誠実であればあるほど葛藤し思い悩むことも多い。しかし、そんな人物に我々は「人のよさ」や温かさを感じるのである。

(2) 児童の実態

最高学年になって数か月だった。放課などの子どもたちの関わりは限定的であり、全体的に仲のよい者同士で遊び、特に男女間、女子の中では広がりあまり見られなかったが、運動会の練習を通して少しずつ関係を深めることができた。また、日ごろの授業でのグループ活動、構成的グループエンカウンターや、係のオリジナル活動でさらに意図的に関わりを深めている。

学級目標「ロケット」には、子どもたちの「こんなクラスにしたい」という思いが詰まっている。その思いの一つに「一丸となって同じ方向を向き、仲間と協力できるクラスにしよう。」がある。これは子どもたち自身が決めたものであり、個人や集団として高めていくには、お互いに深く関わりをもつ必要があることに気付いていることが分かる。お互いに関わる際は、互いにしっかりとコミュニケーションをとり、自他のことを真剣に考え、真心をもって接することが必要である。しかし、子どもたちの様子を見てみると、相手の気持ちを軽く扱ったり、相手の思いにまで気持ちが回らず自分で勝手に判断し、行動してしまったりすることもある。さらに、集団や一部の子の言動に流され、いけないと分かっていたり自分の思いがあつたりしてもそのことと向き合えない子もいる。

そんな子どもたちに、本時を通して、「誠実」とは何かじっくり考える機会をもちたい。手品師の人間性から誠実に生きるよさを実感してほしい。そして前向きでよりよい人間関係を築き、深まりのある学級にするために自分自身にも周囲に対しても誠実に行動しようとする気持ちを高めてほしいとを願う。

(3) 資料の価値

本資料は、大劇場への出演を夢見る売れない手品師が、少年と交わした約束と、友達からの誘い(大劇場への出演依頼)との間で、迷いに迷った末、少年との約束を選択する内容である。自己の利益や名声よりも男の子との約束を選んだ手品師からは、他者に対する誠実さだけでなく、「自分自身に対する誠実さ」についてはどうか問うことができ、「誠実さ」とは何かを深く考えさせられる。夢に向かって頑張ってきた自分自身の気持ちに誠実であることと約束を交わした他者に誠実であろうとするために夢をあきらめることはどちらに価値があるのかということである。これらを比較・検討することから、誠実に生きる人間のよさについて考えることができる。子どもたちが誠実に生活しようとする気持ちを高めるのに適した資料である。

4 本時の視点

(1) 言語活動を充実させるための工夫

子どもたちが考え、話し合うことで主体的に道徳的価値観を高め、形成していくことを願う。そこで、自分の考えをはっきりさせたり深めたりすることができるように、友達の見解を聴くグループ活動の場を設定する。また、互いの意見を可視化して思考の深まりに利用することができるようにグループごとにホワイトボードを用意し、自由に使用できるようにする。

(2) 授業の見所

- ・従来の道徳の時間は、資料のある場面の心情を問う場面発問が主流であった。場面発問は授業の展開が行いやすいし、子どもも考えやすい。しかし本時では、資料のテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり追究したりするテーマ発問で構成した。子どもが真剣に考え意見を出し合い、考えを広げ、学びを子どもたち自身が獲得できるように教師が適切に問い返し、授業を作っていくようにしたい。
- ・手品師の誠実性について考える際に、自分の考えを深めたり広げたりするために4～5人の小グループでの活動を取り入れるところ。☐
- ・展開の2つの発問について、問い返しの発問をしながら構造的に板書し、子どものもつ「誠実」についての価値観を揺さぶり、深めていくところ。☐

5 準備

(教師) 絵 (大劇場, 男の子, 手品師), ワークシート, センテンスカード, ホワイトボードセット

6 指導過程

※問・・・問い返しの発問

過程	学習活動	○支援と指導上の留意点 ★評価(視点)
導入	<p>1 「誠実な人」と聞いてどんな人をイメージするか考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい人 ・約束を守る人 ・正直者 ・優しい人 ・真面目な人 ・責任感がある人 </div>	<p>○支援と指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級全体で考える際にお互いの意見が聴きやすいように、座席はコの字型で行う。 ○「誠実」という文字を提示する。そして、子どもたちが気軽に答えられるような雰囲気をつくる。 ○「誠実な人はいい人か悪い人か」と聞き、誠実についての子どもたちの大まかなイメージをとらえられるようにする。 ○「誠実」というキーワードを本時は考えていくことを伝える。 ○必要に応じて近くの人と相談するようにする。 <p>★評価(視点)</p>
展開	<p>2 資料を読んで考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>手品師は、<u>誠実</u>だと思いますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○誠実だ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を守ったから 補②へ ・男の子に対して優しいから ・大劇場へ行かず、自分のことより相手のことを考えて行動したから。 <p>○分からない 問①へ</p> <p>○誠実でない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンスをものにしてないから。自分自身に誠実ではないから。 </div>	<p>○主人公である手品師を簡単に紹介し、誠実な人かどうか考えながら読むように伝え、課題意識をもって読めるようにする。</p> <p>○誠実かどうかとその理由も考えるように伝える。</p> <p>○「手品師は約束を守ったから誠実である」という意見など、導入での価値観を利用し、「誠実」と答える児童が多く出ることが予想される。理由が様々だと考えられるので、教師との対話を通して子どもの思いを明確にする。</p> <p>例：手品師はどんな約束をしていましたか。 : 優しいのはどういうところかな。詳しく教えてください。 : 自分のことって何だったかな。 その後、必要に応じて全体に問いかける。</p>
閉		

- ① 申し訳ないという気持ちはあると思う。友人には正直に自分の決めたことを伝えている。だから手品師は誠実かな。
- ② 大劇場だと思う。
- ・自分の気持ちは我慢したけど、男の子は喜んでくれている。男の子との約束を守った。だから悪い人じゃないと思う。
 - ・誠実かどうかわからなくなったけど、手品師は、いい人だ。悪い人ではない。
- ③ ・嫌々行ったのではないと思う。大劇場へ行って手品を見せることは夢だけど、それより目の前のお客さんに喜んでもらうことが大事だと思ったのではないか。
- ・半分嫌々なのではないか。行ったら男の子は喜んでくれる。でも自分の夢がかなうのは当分先。またはもうないかもしれない。
- 手品師の迷い
- ④ 大劇場へ行ったということは、自分自身の夢を実現できたけど、約束を守っていないので誠実とはいえない。
- ⑤ 自分の夢をかなえたいという思いは絶対あると思う。でも男の子との約束も頭から離れなかったんだと思う。結果そちらを優先させた。
- 手品師の迷い
- ⑥ 相手のことを思いやっているのでいい人だと思うけど、自分の気持ちには正直じゃない。でもこの人はいい人に思える。自分の夢を実現させようとするのは悪いことではない。
- ⑦ ・いい人だと思う。
- ・悪い人ではないと思う。

○以下のような問い返しの発問を行うようにし、子どものもつ「誠実」の価値観について揺さぶる。問い返しの発問は、順番通りするのではなく、子どもの反応によって適当だと思われるものを使う。

問①手品師の友人はどんな気持ちなんだろう。せつかくの友人の親切を断ってしまう。男の子の方にはいい顔をしています。手品師は誠実ですか。

問②手品師は、本当はどっちに行きたかったのかな。

「大劇場」ということだけど、話では男の子のところへ行っているから手品師は自分の気持ちにうそをついている。誠実ではないね。誠実ではないということは、手品師はいい人ではないですね。

問③手品師は大劇場ではなく、男の子の方に行ったのは、嫌々行ったのかな？

問④もし、手品師が大劇場へ行ったならば、手品師は、誠実ではないのですか。誠実ではないということは優しくないですね。さらに「いい人」ではないってことかな。

問⑤これまで一生懸命練習を重ね、大劇場で演じることを夢にしていたのに、行かないのは、自分自身の思いに誠実といえますか。

問⑥自分の気持ち（夢）を我慢して相手のために必ず行動する人は、いい人ですか。自分の夢を実現させようとするのは悪いことですか？

問⑦手品師はいい人ですか悪い人ですか

○問い返しの発問の⑥⑦を行うことで手品師が「いい人」であることを確認し、手品師のどんなところがそう感じさせるのか問題意識を持たせる。

○適切な場面での問い返しの発問や子どもと対話することなどから、「誠実」という価値観は、「優しいこと、約束を守ること」というような導入で出されたものだけでは説明できないことを実感するようにする。

○どちらかに行ったら「誠実=いい人」ではない。でも手品師にはよさを感じる。そ

のよさについて考えていくようにする。

手品師のよさって何でしょう。

- ・男の子のことを思いやっていること
- ・手品師としての仕事を真面目に行っていること。(最後は男の子に対して)
- ・目の前にいる自分自身のお客さんを大切にしようとしたこと。

- ① 友人から電話があった日
- ② 当然自分の夢を優先させると思います。

- ③④手品師として、自分の夢とお客さんを喜ばせること(約束)はどちらも大事なものであるから真剣に悩んだと思う。そこが手品師のよさだと思う。だからもし大劇場に行っていたとしても、「悩みに悩んでいる」のだから、手品師は誠実だと思う。
- ・常に真剣に物事を考えているところだと思う。ついさっき会った人との約束と自分の夢を、どちらにしようかと考えるところ。
- ・滅多にないチャンスなので、自分が手品師だったら、迷わず大劇場に行くと思う。しかし、この手品師は迷っている。自分の夢と男の子との約束で迷っている。こういうところがいい人で、心が温かい人なのではないか。

- まずは短時間で個人で考えた後に、グループで意見交換をするように伝える。
- 「発表会」や「グループで意見をまとめる」ではなくお互いの意見を聴き合ったり、意見交換をしたりして、自分の意見を深めやすくするためのグループ活動であることを伝える。また、ホワイトボードを各グループに用意して適宜使用してもよいようにする。

○グループ活動後に、全体で意見をさらに深めていくようにする。

問①男の子とはいつ会ったのですか？

問②ついさっき会った人との約束と自分の夢は、どちらを優先させたいですか？

問③手品師にとって見れば、迷わず「大劇場」なのではないのですか？

問④手品師にとって、長年ずっと夢見てた大劇場と、今日あったばかりの男の子との約束は、どちらが大切なのでしょう。それはどのように考えたのですか？

4 本時の感想を書く。

- ・自分は、最初は誠実の意味がよくわからなかった。手品師の学習をして、相手のことや自分のことを真剣に考えて物事を決めていくことが誠実ということなんだと思った。心をこめて考えたり行ったりしたことは必ず相手に伝わると思う。
- ・最初は「誠実な人」と聞くと、優しい人しか考えられなかったけど、この授業で誠実について詳しく学べた。手品師は大舞台に立ちたいという思いと男の子との約束で悩みに悩んで男の子との約束を選んだが、どちらを選んだから誠実というのではなく、選び考えているときこそが大切だと思った。今の自分のことしか考えていないことが多いと思う。周りの人にも自分自身についても、それぞれを思いやれる気持ちを持ち、これからも過ごしていきたい。

○本時を通して、最初の自分の考えがどのように変わったのか、感じたことなどをまとめることで、「誠実」について価値の再構築を図る。また、ペアやグループなどで自分の感想を伝え合うことでさらに価値を高めるようにする。

○考えが浮かばない児童には、「手品師」、「自分」、「誠実」という言葉を使ってまとめるように支援する。

○うまく文章や言葉で表現できなくても、子どもの考えている様子や表情などを見て称賛する。

★誠実に生きる人間のよさが分かり、誠実性を求めて生きていこうとする気持ちを高めることができたか、発表の様子やワークシートから判断する。(具体的な記述等は左参照)

A:「誠実に生きること」のよさを実感すると共に、今の自分の誠実性について考え、積極的に高めていこうとすることができる。

B:「誠実に生きること」のよさを実感し、自分の生活にも生かしていこうとしている。

終

末